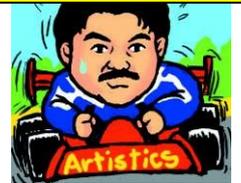


# アーティストックス通信

No.8 「再会」号



## 『青木匡光先生と、3年ぶりの再会!!』

3月のある日、青木匡光さんを久しぶりにたずねてお会いしました。

その日は、あるところで出会った同業者の社長にお会いしに行きました。この世界同時不況の波をもろに受けまして、当社も非常に厳しくなってきました。ですので、私が新規事業にと考えているものに取り組んでいる会社の社長を訪問しました。新宿のその会社から帰る途中に、「あれ?この辺は、確か青木先生のヒューマン・ハーバーがあるところだなあ」と思い、無駄足覚悟で寄ってみたたら、食事をごちそうになりながらお話しができました。

青木匡光(あおき・まさみつ)さん 1933年東京生まれ 小樽商科大学卒業 三菱商事に10年間勤務後、広告会社に転職 75年アソシエイツ・エイランを設立し、異業種交流の場を提供、サロンのオフィスを「ヒューマン・ハーバー」(人間の港)として開放し、ヒューマンメディアーター(人間接着業)として、人間関係に悩む人たちに指針を与え、意欲的な人同士を結びつけている。ビジネス評論家、「LPO法人江戸しぐさ」の監事も務める 著書に「EQ型人間が成功する」(産能大学出版部)、「青木流人づきあいの極意」(KRONUNGセライズ)など多数

青木さんとの出会いは、経営塾の主宰者、オリジンコーポレーションの杉井保之さんの紹介でした。いまから3年近く前の話です。静岡経営塾や沼津経営塾の2周年記念にもご講演いただきましたので、ご存知の方も多いでしょう。

### 竹下さん、ご次男誕生おめでとございます!!

わが社のスーパー事務員兼SEOクリエイター・竹下さんが、無事にご次男の「海(かい)君」を出産しました。出産の前日まで出勤をして、1週間後にはケロリとした顔で職場に来るといふ無謀ガンバリを見せてくれて、周りを驚かせました。離乳してお酒が解禁になったら、奥水さん所のおいしいワインでお祝いしましょうね!



### デイスカッション・パートナーを 持とう!!

青木さんとお話をしていの中で、非常に印象に残った話は「ぜひ、デイスカッション・パートナーを持つといいですよ」というものでした。

『デイスカッションパートナー』初めて聞く言葉でした。文字通り、デイスカッション(議論)するパートナー(相手)です。人は何か困ったり決めかねたりする時に、誰かに相談することがあります。けれど、この相談というのは意外と難しい。相談されたほうは責任重大です。相談する方も、アドバイスしてもらったのにやらないと、なんとなく気まずい。



デイスカッションは、相談ではありません。「私はこう考える」「あなたからはどう見えるか」と、ただ意見を交わすだけ。意見を押し付けられない。デイスカッションを持ち込んだ者は、その話の中から、参考になるものは取り入れます。でも従わなければならないということもありません。結論は自分が出す。お互い大人なのですから、あくまで自己責任です。意見を言う方もアドバイスではないから、気軽に自分の考えを言いやすいですね。

その話を聞いて、デイスカッションパートナーにはどんなひとが いいのか?自分なりに考えてみました。①ポジティブ(できない原因探しではなく、やり遂げる方法探し) ②自分のポリシーを持っている ③自分と違う視点を持つ人も必要 人に相談するときは、実は意見が欲しいんじゃないかと、自分を肯定してほしいだけの場合があります。自分とは違う視点を持っている人は必要です。自分がいくら考えても思いもつかないような意見や見方を教えてくれます。時には批判者も必要。つい遠ざけたくなりますが、考えを強固なものにするためには、批判者は大切です。こんなデイスカッションパートナーになり得る人は、自分の周りにもきつといます。そういう人がいたら、自分の中で勝手に「デイスカッションパートナー」に任命しましょう。相手に伝えてたら喜ばれると思いますよ。信頼の証なのですから。

### 4月イベント・活動予定

- 1 (水) 新入社員初出社日
- 4 (日) 静岡はがき祭り グランシップ
- 12 (日) 東京CL 100 回記念講演会
- 13 (月) 社内月例会 & 新入社員歓迎会
- 17 (金) ソフトウェア経営研究会
- 19 (日) Eそうじの会 イーリード様
- 23 (木) 沼津建設的な生き方を学ぶ会 原
- 24 (金) 山中湖建設的な生き方を学ぶ会 安心サービス様

この通信は、長岡または当社員がご縁をいただいた方にお送りしています。通信不要、送り先が違つたりなどございましたら、下記までご連絡ください。

仕事は自分で探して、

創り出すものだ

与えられた

仕事だけをやるのは、

雑兵だ

——— 織田 信長 ———

織田 信長（おだのぶなが 1534年6月23日～1582年6月21日）は、日本の戦国時代から安土桃山時代にかけて、世に多大な影響を残した武将であり、戦国大名であり、政治家である。  
当時の常識や権力に囚われず、新しい考え方や文化を積極的に取り入れる見識の広さ、合理性と冷徹さを兼ね備えた知性によって、統一者のいなかった政治的混沌を収集に向かわせた人物である。その事業は大方向を示したところで重臣の一人・明智光秀の裏切りに遭い、自刃に追い込まれたことによって頓挫した。しかし、政権の実質の後継者となった羽柴秀吉が、信長の築いた足場をもとに天下統一を進め、ついには成し遂げることとなったことから、豊臣秀吉が継ぎ、徳川家康が完成させる形となった日本近世の形成事業の創始と言うべき位置づけにあった政治家である。

（フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』より抜粋引用）